

- 1.日時 2015 年 10 月 9 日（金） 18:30~20:00
- 2.場所 中部本部会議室（花車ビル 6F）
本会場 東京日本技術士会会議室（萱手第二ビル）
- 3.参加 16 名（中部会場）
- 4.講演内容

今月は、エネルギー問題を解決する切り札として急浮上している「水素社会」に関する内容について、立場の違うお二人から講演された。

(1) 水素社会の実現に向けた川崎水素戦略～水素 to 人が暮らすまち

高橋友弘氏（川崎市 総合企画局スマートシティ戦略室 担当課長）

臨海部に多くの工場や発電所を有し、京浜工業地帯の中核をなす川崎市が、スマートシティ構築の一つの施策として水素エネルギーの導入・利活用に取組んでいる。「未来型環境・産業都市」の実現を目標にかかげ、①水素システムの構築、②多分野への水素利用拡大、③社会受容性の拡大 の3つの戦略で具体的なリーディングプロジェクトを数多く行っている。代表的なものとして

- ・水素を有効活用する「製造」「貯蔵・輸送」「利用」まで一気通貫のサプライチェーン構築
- ・太陽光を用いて製造した水素を貯蔵する自立型エネルギー供給システム（BCP 対応）
- ・風力を用いて製造した水素を臨海部倉庫の FCV フォークリフトで活用
- ・回収した使用済みプラスチックから製造した水素を利用する循環システム

があげられる。川崎の地域特性を活かし、日本の課題解決を川崎からという意気込みで進めていく。

(2) 最近のニュースからみた水素エネルギーのトピックス

西田啓一氏（西田技術士事務所）

今年は水素エネルギー元年と報じられ、新聞などで水素エネルギーに関する記事を頻繁に見かける。水素に関する技術コンサルタントの立場から、水素の製造、貯蔵、利用などについてトピックスを交えながら記事を紹介・解説する。再生エネルギーによる製造が注目されているが、電力量と安定性の面で懸念がある。FCV としてトヨタ MIRAI の市販が開始されたが、タンク圧が 75MPa（大気圧の 750 倍）という超高圧であり信頼性検証が急務である。など、新しい技術に期待も膨らむが、水素エネルギー社会の構築にむけては課題が山積みであるという現実を理解しなければならない。

※要旨は、当日の講演を聞いてメモしたのから独自にまとめたものですので、この文章に対する質問、問合せなどはご容赦願います。

5.次回予定

11 月 13 日（金） 18:30~20:00

- ① 生産技術の新分野適用の試み

木村利明氏（（一財）機械振興協会技術研究所）

- ② 車の衝突安全の現状と課題

竹内利一氏（竹内技術士事務所）